

# アメリカ絵本の世界展

今世紀中頃にむかえる隆盛期の作品を中心に



「影ほっこ」マーシャ・ブラウン画 from Shadow, illustrated by Marcia Brown, ©1982 Charles Scribner's Sons, New York

会期 1995年  
7月1日(土)  
▼  
10月2日(月)

開館時間 9:30AM~5:00PM

休館日 会期中無休

入館料 大人 700円  
中・高生 400円  
小学生 300円



軽井沢絵本の森美術館  
KARUIZAWA MUSEUM OF PICTURE BOOKS

〒389-01 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢182-1 TEL0267-48-3340

後援/名古屋アメリカンセンター、長野県教育委員会、軽井沢町教育委員会、信濃毎日新聞社、NHK長野放送局、信越放送、長野放送、テレビ信州、長野朝日放送

# アメリカ絵本の世界展

——今世紀中頃にむかえる隆盛期の作品を中心に——

かつてアメリカの挿絵本は、ヨーロッパからの翻訳本やそれを模倣したものが主流でした。19世紀後半、自国の画家ハワード・パイルの成功はアメリカのイラストレーションの質を高め、それにつづくN.C.ワイエス、M.パリッシュらも傑作を残しました。

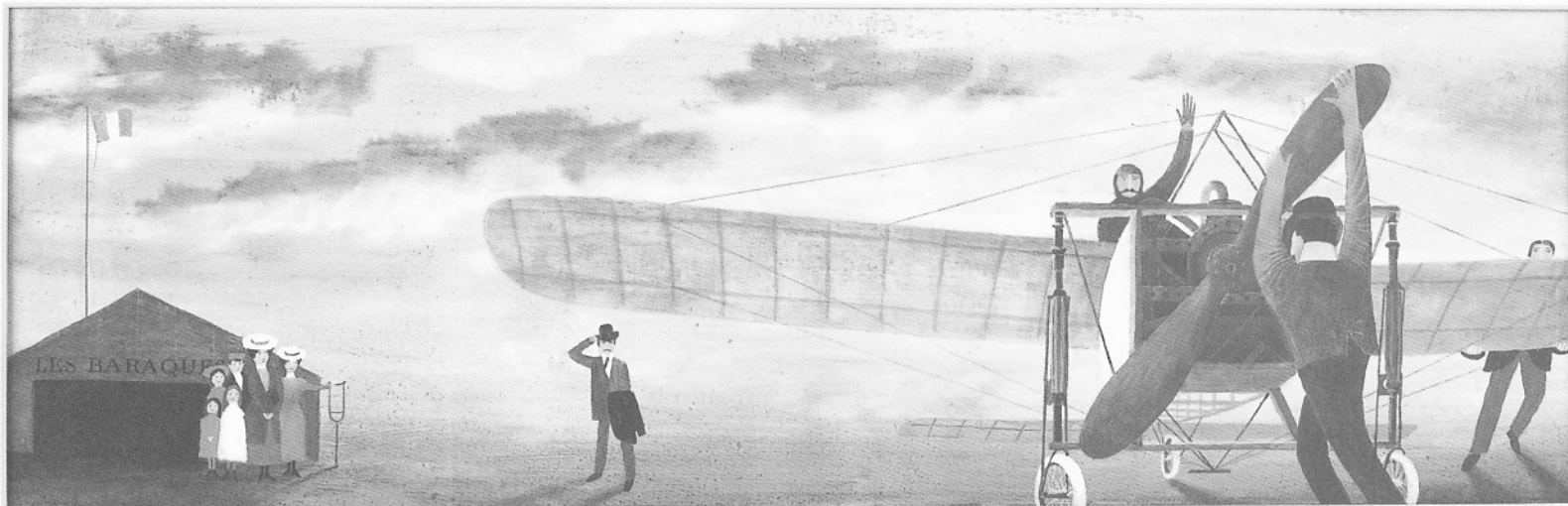
1928年、それまでストーリー中心であった挿絵入りの本にかわって、絵そのものが物語り、文章と調和する、今日見られるような絵本の原形となる作品が生まれました。それはW.ガアグの「100まんびきのねこ」です。続いてM.フラック作「アンガスとあひる」(1930)、V.リー・バートン作「いたずらきかんしゃちゅうちゅう」(1937)など、多くの優れた作品が出現し、1940~70年代にアメリカは絵本の隆盛期をむかえました。

その背景として、アメリカでは、子どもをとりまく文化機構が早くから整えられてきたということがあります。アメリカ図書館協会は、1938年に毎年優れた絵本を選出する「コールドコット賞」を創設しました。以来、この賞は作者の創作の励みとなっています。また、2つの大戦を機にヨーロッパより多くの才能ある人々が移住し、異なる文化が交流しはじめたことも、絵本の世界の刺激となりました。

そして現代社会の多様化とともに、絵本の表現もさまざまな方向へむかっています。一方、過去に出版され今も愛読されつづけている多くの作品は、今日の絵本の指標となりえましょう。今展では名作が続々と誕生した隆盛期の作品を中心に、バラエティ豊かなアメリカ絵本の魅力をご紹介します。

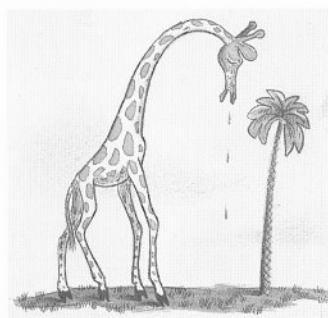


古書「ロビンフッドのゆかいな冒険」ハワード・パイル画  
from The Merry Adventures of Robin Hood,  
illustrated by Howard Pyle,  
©1883 Charles Scribner's Sons, New York



「パパの大飛行」アリス&マーティン・プロヴェンセン画

from The Glorious Flight: across the channel with Louis Bleriot, illustrated by Alice and Martin Provensen, ©1983 The Viking Press, New York



「きりんのセシリーと9ひきのさるたち」H.A.レイ画  
from Cecily G. and the 9 Monkeys, illustrated by H. A. Rey,  
©1942 Houghton Mifflin Company, Boston



「ハンゼルとグレーテル」ジェームズ・マーシャル画  
from Hansel and Gretel, illustrated by James Marshall,  
©1990 Dial Books for Young Readers, New York

軽井沢絵本の森美術館  
KARUIZAWA MUSEUM OF PICTURE BOOKS